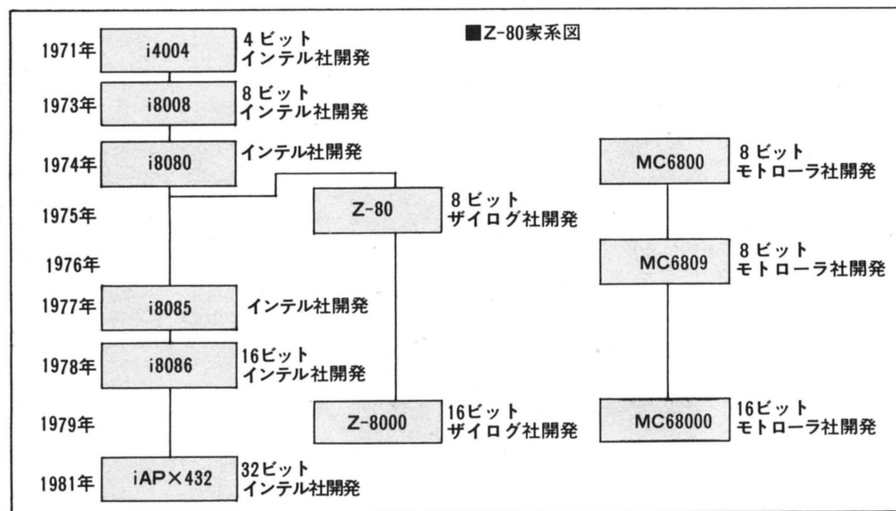


Z-80の方はi8080を改良して、1相クロック、単一電源5V、DRAMのリフレッシュ回路を持つなど、ハード的な特徴に加え、ソフトウェア上でも命令を増して、i8080のソフトも使えるので今一番使われている

だ。だからNECやシャープなどでもセカンド・ソースとしてZ-80と同じ機能を持つCPUを作っているんだよ(写真-1)」

これらが、Z-80の兄弟たちなのね。AKEMIは先生のお話を聞いて、Z-80の家系



図を作ってみました。4ビットにはじまって32ビットまでの過程がわかるかな？

また、Z-80CPU使用機種も集めてみました。実にたくさんあるんで、ほんとに驚いちゃった。Z-80って、広まってんですね。

皆さんも、CPUのできたときのこぼれ話とか集めてみると、とっつきにくいハード面にも親しみが持てるかもね。

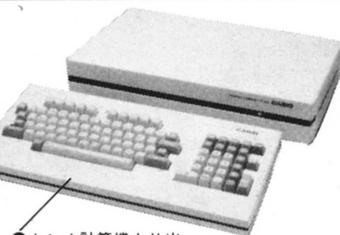


## の理解度テスト

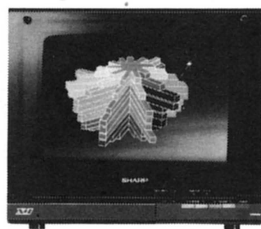
次の質問に○か×で答えてください。

- 問1 CPUの顕微鏡写真を撮るためには、まずCPUに高圧電流を加え、破壊する必要がある。  
 問2 普通、CPUの硝酸煮は食べられない。  
 問3 世界初のCPUがZ-80だ。  
 問4 i8080はZ-80の上位コンパチブルCPUだ。  
 問5 80系と68系の競争は、16ビットCPUについてもつづいている。

正解は75ページ



●カシオ計算機より出ている、FP-1000、1100。倍々精度はカシオならでのものだろう。



●コンピュータ部分(CZ-800C)とディスプレイテレビ(CZ-800D)をひとまとめにしたシャープのパソコン、X-1。スーパーインボーズはなかなかのアイデアだ。



●MULTI 8。三菱電機のパソコン第2弾！PC-8001のソフトがそのまま読めるという風変わったパソコンだ。三重和音のPSGもなかなか。



●PASOPIA。東芝初のパソコン。T-BASICとOA-BASICの2つのバージョンがあったが、現在ではOA-BASICしかない。



●PASOPIA 7。27色グラフィックと6重和音PSGのスクレモノ。処理速度も速く、その機能性には目をみはるものがある。

●TRS-80(タンディ)APPLE、PETと並んでパソコンの超ベストセラーとなった機種。モノクロだが値段が安かったため、根強い人気があった。



●SC-3000(セガ)。超低価格パソコン。BASICを始めとしたソフトはROMカートリッジで供給される。BASICは3レベルに分かれている。



●RX-78(バンダイ)。カスタムチップを使うことにより、NTSCで解明画像を実現。ソフトはすべてROMで供給され、楽しめるものが多い。



●if-800 model 20。OKI製のフロッピーディスク2台、ディスプレイ、プリンタとすべてを備えたオールインワン型。事務処理用に多く活用された。



●PASOPIA 5。PASOPIAのT-BASICを受け継いだ機種。同機能で低価格になったが、液晶ディスプレイが使えなくなった。



●SMC-70ソニー初のパソコン。アナログRGB方式を採用することにより、鮮明な16色表現を可能にした。3.5インチコンパクトフロッピーも使用可。